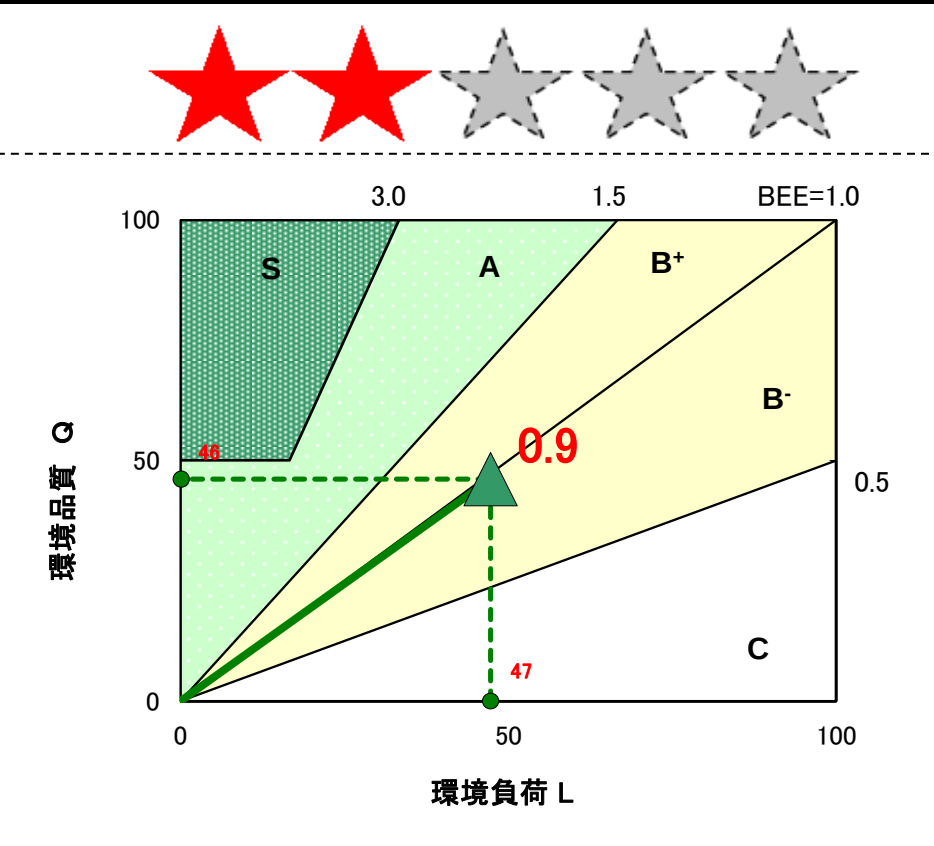


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)熊本中央街マンション 新築工	階数	地上13F	外観パース等 外観図の貼り付けは、 【外観図】シートへ貼り付けしてください。
建設地	熊本県熊本市中央区中央街 5番10	構造	RC造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	72 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	事務所、集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年7月27日	
敷地面積	497 m ²	作成者	城後	
建築面積	362 m ²	確認日	2018年8月3日	
延床面積	3,349 m ²	確認者	城後	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



BEE = 0.9

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	★

排出率

103%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

重点事項総合評価	評価点
	72

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

82.5

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

56.2

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

67.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

69.7

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	(仮称)熊本中央街マンション 新築	階数	地上13F
建設地	熊本県熊本市中央区中央街 5番10	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	72 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2018年7月27日
敷地面積	497 m ²	作成者	城後
建築面積	362 m ²	確認日	2018年8月3日
延床面積	3,349 m ²	確認者	城後

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	103%
③上記+②以外の	103%
④上記+	103%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.3, Q2 サービス性能: 3.0, Q3 室外環境(敷地内): 1.9, LR1 エネルギー: 3.9, LR2 資源・マテリアル: 2.6, LR3 敷地外環境: 2.5

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

音環境: 3.2, 温熱環境: 3.0, 光・視環境: 2.9, 空気質環境: 4.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

機能性: 3.0, 耐用性: 2.9, 対応性: 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.9

生物環境: 1.0, まちなみ: 3.0, 地域性・: 1.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.9

建物外皮の: 3.0, 自然エネ: 2.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

水資源: 3.0, 非再生材料の: 2.5, 汚染物質: 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=2.5

地球温暖化: 2.7, 地域環境: 2.3, 周辺環境: 2.5

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 72

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進

評価点 = 82.5

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現

評価点 =56.2

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全

評価点 = 67.5

重点事項4: 循環型社会の実現

評価点 =69.7

重点事項の評価(レーダーチャート)

温室効果ガス排出量削減の推進: 125, 安全安心で暮らしやすい社会の実現: 100, 県の地域資源の有効活用と保全: 75, 循環型社会の実現: 50

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)熊本中央街マンション 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境					0.40		-	3.3
1 音環境				3.0	0.15	3.3	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音				3.0	0.50	3.6	0.50	
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音				-	-	3.0	-	
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御				3.0	1.00	3.0	1.00	
1 室温				3.0	0.62	3.0	0.63	
2 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.38	
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				-	-	-	-	
2.3 空調方式				-	-	-	-	
3 光・視環境				2.4	0.25	3.0	1.00	2.9
3.1 昼光利用				3.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	0.50	
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				4.2	0.25	4.2	1.00	4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.60	5.0	0.63	
1 化学汚染物質				5.0	1.00	5.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.49	3.0	0.50	
2 自然換気性能				3.0	0.02	3.0	0.50	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.49	-	-	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御				-	-	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0
1 機能性				3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性				-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観				4.0	0.02	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	0.98	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				2.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3 電気設備				1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性				3.0	0.30	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				4.2	0.01	3.6	0.50	
1	階高のゆとり			5.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.01	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.97	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	1.9
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				1.5	0.30	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.1
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.72	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	0.05	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	0.95	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	2.5
2 非再生性資源の使用量削減				2.5	0.60	-	-	
	2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		ー	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ー	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	2.6
3 汚染物質含有材料の使用回避				2.6	0.20	-	-	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		2.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.5
1 地球温暖化への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7
2 地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
	2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			-	-	-	-	
	1	騒音		-	-	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.67	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			1.6	0.33	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

建物の環境品質を充実させ、環境負荷の低減にも努めた。

Q1 室内環境

界壁の厚みを220とし、隣戸間の遮音性能の向上に努めた。また、断熱性能の確保及びF☆☆☆☆の材料の積極的な採用を行った。

Q2 サービス性能

段差解消しバリアフリーに配慮した。

Q3 室外環境（敷地内）

店舗77㎡に植栽を設け、緑地確保に努めた。

LR1 エネルギー

タイムスケジュール制御、人感感知、明るさ感知による自動点滅制御を採用した。

LR2 資源・マテリアル

節水に努め、有害物質を含まない材料を採用した。

LR3 敷地外環境

自転車置場はスライドラックを用いて台数を確保した。

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

(仮称)熊本中央街マンション 新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		72
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.5	0.40	33.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	1.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				56.2	0.20	11.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	1.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				67.5	0.20	13.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				69.7	0.20	13.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数